



会社プロフィール

代表取締役 石川 馨子

【事業内容】不動産の賃貸仲介・売買・管理・コンサルティング、リフォーム、建物メンテナンスなど

【所在地】城西3-8-25-1F

「住まい」のプロとして、賃貸仲介から売買、管理、コンサルティングなど不動産全般を取り扱う株式会社LRC（屋号・カオルエステート）を紹介いたします。

代表取締役の石川馨子さんは、不動産トラブルで困っている親族の力になりたいたと宅地建物取引士の勉強を始めたことがきっかけで、平成15年に熊谷市内の不動産会社に就職。15年間で多くの経験や知識を蓄えた後、平成30年10月に同社を創業しました。不動産業界のイメージ向上を図りたいと、特に接客に力を入れている同社では、女性スタッフによる柔軟かつきめ細やかな対応で、老若男女を問わず多くの顧客から好評を得ています。

主な事業である賃貸仲介では、内見案内にオンラインを取り入れるなど、ライフスタイルの変化に合わせた部屋探しのサポートもしています。また、土地や建物などの購入や売却については、市場価格・査定の確かな調査をした上で、誠実で公正な取引を行っています。

石川さんは、地元にも貢献できると、市内の空き家活用の相談も積極的に受けています。「相続などで空き家となった家屋は、そのまま放置してしまうと立木や雑草の繁茂による隣地や道路への越境、老朽化による倒壊などさまざまな問題が発生します。大切な資産を有効活用し、次のステージに生かしていくためにも、空き家を所有されている方は気軽に相談してほしいです」と石川さんは話します。

その他にも、リフォーム・リノベーションのプランニング・施工や移住・定住の支援など幅広い事業を展開する同社今後について、石川さんは、「これから不動産を主軸としながら、不動産につながる新規事業を立ち上げ、行田市を活性化させていきたい。また、これから起業する方の支援など頑張っている人を応援していきたいですね」と語ってくれました。不動産を通じて地域社会に貢献するため、同社の挑戦はまだ続きます。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課(内線318)までお寄せください。

私の作品

城西 榊原しずか
ここまでは内緒の話うそ寒し

緑町 松林 真弓
送るとは残さること曼珠沙華

藤原町 斎藤雄次郎
澄む秋や堰を越え来る水の帯

南河原 今村 文女
残菊に己が晩年重ねる

荒木 藤田 栄之
稲妻や利那はなやぐ真夜の利根

門井町 宮田 淑尚
行く秋や今日も無人のバス走る

和田 小林 博矣
羅漢さま小春日和の禪問答

棚田町 川鍋 幽寛
牡蠣打ち女手より口数多かりき

埼玉 荻原 増夫
余生なほ派手に生きたし女郎花

長野 牧 努
コスモスの揺れて思い出解れゆく

渡柳 大西 道子
草紅葉語らひ尽きぬ一万歩

忍 大澤 由子
連山をすっぽり包む薄紅葉

中里 鯨 美智子
名をすべて言ひ当てる母草の花

持田 中野 華泉
星月夜「昴」もとめて逝きし君

旭町 大川 恵子
秋天へ「いい日旅立ち」口ずさむ

下忍 荒井 王子
新蕎麦の蘊蓄長き店主かな

荒木 高澤よね子
秋野菜植えて心のよりどころ

上池守 益岡 恵子
風の来て葉裏に避難秋の蝶

(三沢 一水 選)

○俳句応募方法 一人3句以内。毎月末日(必着までに、住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記の上、はがき・封書で広報広聴課。なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

来て! 見て! 図書館

行田市立図書館 開館時間：午前9時～午後7時
休館日：12月4日・11日・18日・25日・28日
令和6年1月3日水・9日火
※休館日の図書館の返却はブックポストをご利用ください。(年末年始を除く)

佐間 3-24-7
TEL: 556-4227
FAX: 555-3770

「第10回行田市立図書館を使った調べる学習コンクール」の受賞者が決定しました

全40作品の応募の中、審査会により次の5作品が賞に輝きました。なお、優良賞の2作品は、公益財団法人図書館振興財団主催の全国コンクールへ出展します。

- ▶優良賞
- 川俣侑以さん(西小学校2年)
「わたしは宇宙ひこうしになりたい!!!宇宙ひこうしになるにはどうすればいいの???
 - 小門瑛翔さん(忍小学校4年)
「忍者の謎にせまる!!」
- ▶奨励賞
- 栗本壮さん(太田小学校4年)
「正座をするとなぜ足はしびれるのか」
 - 高橋茉莉さん(桜ヶ丘小学校5年)
「カナヘビの研究」
 - 小門茉莉奈さん(忍小学校6年)
「宇宙について～地球以外に人は住めるのか?」

新年!本の福袋

- ▶期 日 令和6年1月4日(木)～8日(月)※なくなり次第終了
- ▶場 所 図書館内
- ▶内 容 中身の分からない本の福袋(3冊入り)を貸し出します。
- ▶配布数 【大人向け】30セット、【未就学児向け】20セット、【小学校低学年向け】20セット、【小学校中学年向け】10セット、【小学校高学年向け】10セット
- ▶その他 貸出期間は通常通り

年末年始は返却用ブックポストを閉鎖します

- 年末年始期間中は返却用ブックポストの閉鎖に伴い、資料の貸出期間を延長します。
- ▶閉鎖期間 12月28日(木)午後3時～令和6年1月4日(木)正午
- ▶閉鎖場所 図書館前およびJR行田駅観光案内所の返却用ブックポスト
- ▶資料返却期限 12月14日(木)～20日(水)に貸し出した資料は、貸出日から3週間

行田 歴史系譜 357

資料がかたる 行田の歴史 57

忍から白河へ「白川御家中様方御相对御荷物仕切帳」

文政6年(1823年)の三方領知替では、忍に暮らしていた阿部家の家臣たちも家財を整えて陸奥国白河へ引っ越して行かねばなりません。この資料は、白河へ移る阿部家臣たちの荷物輸送について、久保田河岸(現在の茨城県結城市)の宮田権兵衛から酒巻河岸(行田市酒巻)の正田今平へ宛てた明細書です。

忍から白河への輸送は、河川と陸路を使いました。白河藩・会津藩などの東北諸藩が江戸へ米を輸送するルートはさかのぼったと考えられます。まず、酒巻河岸から利根川を下った後、境河岸(現在の茨城県境町)で一度陸揚げし、久保田河岸までは陸路を行く、またはそのまま利根川を下り、鬼怒川との合流地点から遡上するコースがあります。いずれにしても鬼怒川の久保田河岸を経由し、川を上って阿久津河岸(現在の栃木県さくら市)へ。そこで陸揚げして原街道(白河～氏家宿阿久津河岸)を通り白河に至ります。複数の河岸を継いでの輸送になるので、忍藩御用酒巻河岸の正田今平が輸送を請け、途中からは久保田河岸の宮田権兵衛に仕切りを任せ、船賃を明細にまとめて請求してもらったようです。当時の舟運の船賃は、御用荷物を扱った御定賃銭と民間相場である相对賃銭がありましたが、阿部家臣の荷は相对賃銭を用いた相对荷物として扱われました。

忍から白河まで、約160キロメートルの道のりです。天候によっては、引舟で川をさかのぼる苦労も相当なものだったでしょう。藩士たちも、家財の運搬には気を揉んだことと思われます。

(郷土博物館 浅見貴子)

白川御家中様方御相对御荷物仕切帳 (個人蔵/埼玉県立文書館保管)